

# 一般質問

一般質問とは、市の事務や市が抱える課題等について市長などにたずねるもので、6月定例会では15名の議員が一般質問を行いました。  
 ここでは、議会広報委員会が事項別に整理した内容の一部を掲載しています。  
 一般質問の全文は、8月下旬作成予定の議会記録に掲載します。図書館や鎌倉市議会ホームページ内「議会記録検索システム」でご覧ください。

## 高齢社会にどうして

高齢社会への対応について  
 次の質問が行われました。

質問：本市の高齢化率は既に30%を超えており、2025年の高齢者人口は75歳以上が65歳から74歳までに比べ倍になると予測されている。その状況に合わせた施策の見直しや展開を図ることが必要と考えるがいかがか。

健康福祉部長：医療や介護を必要とする方が増え、今のサービス提供体制では十分に対応できないということに認識している。この状況に対応するため、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、2025年までの早い時期に、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築する必要があると認識している。  
 質問：在宅医療の推進は地域包括ケアシステム構築の要である。医師会との連携は進んでいるか。  
 同部長：平成30年1月から鎌倉市医師会に委託し、鎌倉市在宅医療・介護連携相談センターを設置し、医療・

介護の連携推進に努めている。今後も連携を密に図っていききたい。  
 質問：鎌倉市には認知症の方はいくらいるのか。  
 同部長：厚生労働省は介護認定の調査項目である認知症高齢者の生活自立度の8段階のうち、軽い方から3番目にあたる2A以上の人を認知症と定義している。この定義により算出すると平成31年4月1日現在の介護保険認定者約1万5000人のうち、5500人となる。  
 質問：認知症予防施策の展開が求められるが、市の取り組みを確認したい。  
 同部長：自治・町内会等地域の団体での出前講座の中で、体を動かしながらしり取りや計算を行うコグニサイズなど脳の活性化を図る内容を取り入れ、知識の普及・啓発を図っている。認知症予防には食生活の改善等による生活習慣病予防や社会参加も有効なことから、フレイル(※)予防や集いの場への助成の取り組みを行っている。  
 質問：認知症の方々と共に共生社会を形作っていくこと

も重要と考えるがいかがか。

同部長：これまでも認知症サポーター養成などの取り組みを進めてきており、認知症について知識や理解を持つ市民を増やし、安心して自分らしく暮らすことができる地域をつくることも共生社会に向けた取り組みの一つと考える。  
 質問：高齢者の外出支援策で社会福祉法人の送迎車を活用したモデル事業の詳細について聞きたい。  
 同部長：地域貢献送迎バスモデル事業として、平成31年4月に鎌倉プライエムきしりと稲村ガ崎きしりの両施設と協定を締結した。鎌倉プライエムきしろは大船駅までの途中、玉縄すこやかセンターに1日3回寄るサンプラスを、稲村ガ崎きしろは毎週月曜日の午後七里ガ浜東にあるスーパーに買い物にきた高齢者を自宅へ送るサービスを行っている。  
 質問：自主的に運転免許返納が本市の状況を聞きたい。  
 防災安全部長：神奈川県警本部の資料によれば平成28年が678人、平成29年が809人、平成30年が768人と、おおむね800人前後で推移している。  
 質問：運転免許返納者へのサポート事業を新たに実施していく考えはないか。  
 市長：運転免許返納者へのサポート事業については、財政的負担も考慮しながら実施に向けて検討していきたい。  
 質問：2025年は目前であり、全庁を挙げて乗り越えていきたいと考えるがいかがか。

## SDGsの推進について

SDGs(持続可能な開発目標)の推進について  
 次の質問が行われました。

質問：「かまくらプラごみゼロ宣言」が行われたが、プラスチックごみ削減に向けた具体的な取り組みを聞きたい。

環境部長：本庁舎などの自動販売機ではペットボトルの取り扱いをやめた。市民に対しては広報紙や「ごみ減量通信」のほか、自治・町内会などを通じて、プラスチックごみ削減のための啓発を行い、事業者へは個別訪問して販売工程等の使い捨て物の削減について啓発している。各種イベントのプラスチックごみ対策としては、リユース食器の補助事業をさらに推進するとともに、海水浴場の海の家に対して、出店の説明会時に宣言の趣旨を説明し、協力を仰いでいる。今後は、店舗等へのポスター等の掲示を通して、事業者へ理解・協力を求めていく。  
 質問：鎌倉花火大会でのプラスチックごみ対策はどうするのか。  
 同部長：昨年度まで実施していた、ごみ回収用のプラスチックごみ袋の配布をやめ、ごみの持ち帰りの呼び掛け

が増えている。65歳以上は高齢者という概念を払拭し、元気なシニア層の社会参加を促進することで、共に支えていくことが重要とされている。超高齢社会を目前に控え、取り組みを一層加速、充実させていきたい。  
 質問：容器包装プラスチックの回収後のリサイクルの状況について聞きたい。  
 同部長：容器包装プラスチックはパレットなどの製品やアンモニアなどの原料として資源化を図っている。製品プラスチックはプラントやざる等の製品への資源化と、サーマルリサイクルにより熱回収を図っている。  
 質問：教育現場ではSDGsをどう学んでいるのか。  
 教育部長：学校での取り組みの例として、小坂小学校では、フードロス00(ゼロゼロ)応援隊として食品ロス削減の啓発に取り組んでおり、それを学級通信で紹介したり、児童が新聞を作成するなどしたりしている。  
 質問：市のSDGs未来都市計画を児童・生徒が学ぶ機会はあるのか。  
 同部長：社会科の学習や総合的な学習の時間の中で、鎌倉市のごみの量やバリアフリーなどについての授業を行っている。引き続き、各教科の単元や項目をSDGsの17の目標のどこに関連しているのかを明示しながら学習活動を行うことで、

## 一般質問項目一覧

- ① 保坂 令子(神奈川ネット鎌倉)
  - 1 子育て支援について
  - 2 防災、特に津波避難対策について
  - 3 本庁舎整備について
  - 4 ごみ処理施設の方針転換について
- ② 日向 慎吾(鎌夢会)
  - 1 海岸と海中ごみについて
  - 2 運転免許返納とサポートについて
  - 3 鎌倉市LINE公式アカウントの活用について
- ③ 長嶋 竜弘(無所属)
  - 1 鎌倉市政に異論反論オブジェクションVOL.7
  - 2 鎌倉市の問題課題を千田新副市長と共に考えるVOL.2～SDGsとは何? 鎌倉市の確証パイアとパラドックスを暴く～
- ④ 竹田 ゆかり(無所属)
  - 1 庁舎管理規則の問題性について
  - 2 平和推進事業について
  - 3 旧優生保護法下における被害者救済法施行にあたって
  - 4 「学校の働き方改革」の進捗状況について
  - 5 教育環境条件整備について
- ⑤ 松中 健治(無所属)
  - 1 ゴミ問題。
  - 2 防災問題。
- ⑥ くりはら えりこ(無所属)
  - 1 特殊詐欺の被害についての対策
  - 2 学校におけるSDGs(持続可能な開発目標)教育について
  - 3 上下水道と河川・海の環境について
  - 4 プラスチックゴミに関する諸問題について(SDGs目標12)
  - 5 北鎌倉駅周辺の道路に関する環境整備について
- ⑦ 前川 綾子(鎌倉みらい)
  - 1 地域包括ケアのまちづくりについて
- ⑧ 河村 琢磨(ヴィジョン)
  - 1 新時代の学びにおける鎌倉市の公教育について(国際バカロレアと情報教育)
  - 2 障害児・者のきょうだいが抱える諸問題とネウボラについて
  - 3 鎌倉市財政の将来予測について
- ⑨ 山田 直人(鎌倉みらい)
  - 1 (鎌倉版)コンパクトシティの形成について
  - 2 認知症施策における「共生」と「予防」について
- ⑩ 伊藤 倫邦(自民党鎌倉市議団)
  - 1 市道道路管理について
  - 2 通学路等危険ブロックについて
  - 3 公用車ドライブレコーダー設置の
- ⑪ 志田 一宏(自民党鎌倉市議団)
  - 1 子供を守る環境について
- ⑫ 千 一(無所属)
  - 1 鎌倉市内の公衆トイレについて
  - 2 身体障がい者中心のグループホームについて
  - 3 鎌倉商工会議所のビルについて
  - 4 鎌倉市内のお店の段差について
  - 5 段葛の2段の段差について
- ⑬ 吉岡 和江(日本共産党)
  - 1 共生社会をめざしてー市民のくらしによりそってー
  - 2 湘南ヘルスイノベーションパークについて
- ⑭ 納所 輝次(公明党)
  - 1 鎌倉市におけるSDGsの推進について
- ⑮ 武野 裕子(日本共産党)
  - 1 「子ども・子育て支援法」と、行政・利用者・事業者への影響
  - 2 子ども会館を閉館することによる弊害

普及率について  
 4 公用車走行時におけるヘッドライトの点灯、その後の実施について  
 5 防犯カメラ設置を行政が(固定式)行う事の考えについて  
 6 レスキューボード(海難事故救護)を導入した事について  
 7 仮称・道の駅整備構想について  
 8 坂の下漁港整備に向けたその後の進捗状況について  
 ⑩ 志田 一宏(自民党鎌倉市議団)  
 1 子供を守る環境について  
 ⑫ 千 一(無所属)  
 1 鎌倉市内の公衆トイレについて  
 2 身体障がい者中心のグループホームについて  
 3 鎌倉商工会議所のビルについて  
 4 鎌倉市内のお店の段差について  
 5 段葛の2段の段差について  
 ⑬ 吉岡 和江(日本共産党)  
 1 共生社会をめざしてー市民のくらしによりそってー  
 2 湘南ヘルスイノベーションパークについて  
 ⑭ 納所 輝次(公明党)  
 1 鎌倉市におけるSDGsの推進について  
 ⑮ 武野 裕子(日本共産党)  
 1 「子ども・子育て支援法」と、行政・利用者・事業者への影響  
 2 子ども会館を閉館することによる弊害

子どもたちが地域や社会で起こっている問題に関心をもち、身近な問題と捉え、自分たちに何ができるかを考え、解決していくことができるような教育を目指していく。  
 質問：市長は都市経営にSDGsの理念を取り入れると述べているが、具体的な進め方を聞きたい。  
 市長：これまで培ってきた市民力、地域力など鎌倉が誇る資源を総動員し、テクノロジーの活用など新たな技術や視点を行行政営に積極的に取り入れることで、鎌倉のまちに新たな価値を築き、次世代に引き継いでいきたい。

【用語の解説】  
 ※フレイル  
 加齢に伴い、心身の活力(運動機能や認知機能等)が低下していく、健康な状態と介護を必要とする状態の中間的な段階をいう。  
 ※SDGs(Sustainable Development Goals)  
 2015年に国連サミットで採択された、17のゴールと169のターゲットから成る持続可能な開発目標。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むとしている。